

### 3 埋蔵文化財の保存の充実

#### (1) 埋蔵文化財調査体制

県土の開発進展に伴い、開発側との事前協議が増加しており、同時に遺跡の保護保存に対する県民の関心も高まっている。これにより発掘調査体制も年々強化され、財福島県文化センター遺跡調査課に遂次定員の増加を図ってきた。現在採用職員35名（内嘱託10名）、県教育委員会出向職員25名、計60名である。

財福島県文化センター遺跡調査課職員数

年 度	昭52	53	54	55	56	57	58	59
人 員	5	9	15	20	23	26	26	30
年 度	60	61	62	63	平元	2	3	—
人 員	40	44	47	47	55	60	60	—

#### (2) 開発事業地内遺跡の保護対策

大規模開発事業地内の遺跡の保護は、①遺跡の所在範囲性格などを明らかにする「分布調査」。②工事等で遺跡が破壊されないように事業者と保護対策を協議する「事前協議」。③工事実施上止むを得ず遺跡の現状が失われる場合には、事前に発掘調査を行ない記録として保存し、調査報告書を刊行する「発掘調査」という三段階がとられる。

##### ア 分布調査

開発地内の詳細な分布調査を行ない、遺跡の保存対策の資料とするもので、表面調査と試掘調査に分けられる。

試掘調査は、国営母畑事業区内1遺跡、三春ダム地内1遺跡、原町火力発電所関連12遺跡、東北横断自動車道18遺跡、国道6号バイパス2遺跡について実施した。

##### イ 開発関係機関との保存協議

前年度からの継続協議を含め、次の事業について関係機関と保存協議を行った。

国営母畑事業地区、同矢吹地区、国営会津農業水利事業南部地区、同宮川地区、東北横断自動車道、三春ダム、原町火力発電所、相馬開発地区及び県内各地の県営・團体営は場整備などの関係機関、国道・県道の工事事務所。

##### ウ 開発に伴う発掘調査

県教育委員会では、開発事業に伴う発掘調査を財福島県文化センターに委託して、下記の遺跡について発掘調査を実施した。

母畑地区 弥明遺跡（10,920m<sup>2</sup>）、矢吹地区 山崎遺跡他4遺跡（12,000m<sup>2</sup>）、会津農水宮川地区 北平遺跡他2遺跡（4,200m<sup>2</sup>）、同会津南部地区 神指城跡（4,170m<sup>2</sup>）、三春ダム地内 蛇石前遺跡他2遺跡（12,000m<sup>2</sup>）東北横断自動車道地内 木村館跡他10遺跡（43,500m<sup>2</sup>）原町火力発電所地内 長瀬遺跡他10遺跡（38,950m<sup>2</sup>）、相馬開発地内 山田B遺跡他2遺跡（15,525m<sup>2</sup>）、合計141,265m<sup>2</sup>。

また、単一市町村内に係わる開発関連の調査は、当該市町村教育委員会が主体者となって実施しているが、遺跡の重要性や調査体制を考慮し、必要に応じて県教育委員会の専門職員を派遣し、指導している。

主なものは、次のとおりである。

月崎遺跡、月崎A遺跡、宇輪台遺跡、敷ヶ森遺跡、沖町遺跡、学壇遺跡（以上福島市）、坊ノ内遺跡、下万正寺遺跡（以上桑折町）、山崎古館跡（国見町）、桐木遺跡、五斗蒔B遺跡（以上保原町）、堂庭遺跡（梁川町）河股城跡、台山館遺跡（以上川俣町）、二本松城跡、杉田館跡（以上二本松市）、上ノ台遺跡（大玉村）、高木遺跡、高木田中遺跡（以上本宮町）、清水台遺跡、石作A遺跡、大供四十塙A遺跡、鴨打A遺跡、夢田遺跡、柿平A遺跡、桐木沢遺跡（以上郡山市）、古館跡、洞山遺跡、明神前遺跡（以上長沼町）、竹の内遺跡、祝言坂遺跡（以上岩瀬村）、境遺跡、前山遺跡（以上鏡石町）、うまや遺跡、西ノ窪館跡、松原遺跡、川屋向遺跡（以上須賀川市）、水の出横穴墓群（古殿町）、深作A・B遺跡、背上A・B遺跡、長作遺跡（以上三春町）、南移町尻遺跡、沖ノ縄C・D遺跡、折ノ内A・B・C遺跡（以上船引町）、新田遺跡（小野町）、小峯城跡（白河市）、横川C遺跡、蒲日向A遺跡、高助館跡（以上西郷村）、道日木遺跡、町屋A遺跡（以上大信村）、羽黒山城跡（塙町）、門田条里制跡、屋敷遺跡、城東町遺跡、堂ヶ作山古墳、上居合遺跡、大戸古窯跡（以上会津若松市）、古屋敷遺跡（猪苗代町）、西原遺跡（山都町）、真福寺跡（西会津町）、惣座遺跡、清水平A遺跡（以上磐梯町）、稻荷塚遺跡、吉原遺跡、三本木遺跡、牛沢館跡、臼ヶ森古墳、館ノ北遺跡、宮ノ北遺跡（以上会津坂下町）、大内宿遺跡、九ヶ布城跡（以上下郷町）、中村城跡、槍町遺跡、初野町遺跡（以上相馬市）、木崎横穴、谷地小屋原遺跡（以上新地町）、中館古城遺跡（鹿島町）、天狗田遺跡、畠原遺跡、石神A遺跡（以上原町市）、北沖A群横穴墓（双葉町）、小浜代遺跡（富岡町）、東町古墳（広野町）、小茶円遺跡、番匠地遺跡、差塩遺跡、高戸A遺跡、道添B遺跡、南山B遺跡、須賀蛭A遺跡、大畑A遺跡、差塩D遺跡、殿田館跡（以上いわき市）

#### (3) 史跡指定調査

##### ① 目 的

歴史上重要な遺跡の史跡指定を積極的に進めるために発掘調査を行い、基本資料を整備する。

##### ② 調査対象

関和久上町遺跡（西白河郡泉崎村大字関和久所在）

##### ③ 調査指導委員

梅宮 茂（福島県文化財保護審議会委員）

岡田茂弘（国立歴史民俗博物館教授）

鈴木 啓（福島県立二本松工業高等学校長）

進藤秋輝（宮城県多賀城跡調査研究所主任研究員）

④ 第二次5か年計画の5年次目（通算第10次）の調査として、高福寺跡東地点、上町南地点、福蔵地区の3地点の発掘調査を実施した。その結果、外郭の北東コーナーが高福寺跡東地点で検出され、状況から築地塀が存在していた可能性が高くなった。これにより関和久上町遺跡の規模は外郭が南北約218m、東西約182m、内郭は南北約118m、東西90mの長方形の区画をもつことが明らか